

進化経済学会ニューズレター

No.59 March 2026



(世界農業遺産「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」 撮影：横田宏樹)

進化経済学会事務局

〒564-8680

大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学政策創造学部

徳丸宜穂研究室

- ✓ 2025 年度オータムコンファレンスの実施報告および 2025 年度進化経済学会第 30 回大会下関大会開催の案内
- ✓ 第 30 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録
- ✓ 第 30 回進化経済学会オータムコンファレンス（下関市立大学）会計報告
- ✓ 進化経済学会 2024 年度収支計算書
- ✓ オンラインライブプレゼンフェス 2025

2025 年度オータムコンファレンスの実施報告および 2025 年度進化経済学会第 30 回大会下関大会開催の案内

下関大会実行委員会 委員長
磯谷 明德

1. 2025 年度オータムコンファレンスの実施報告

2025 年度のオータムコンファレンスは、2025 年 9 月 13 日（土）の午後に、下関市立大学の本館 1 棟・I-206 教室で開催された。コンファレンスへの参加者は 20 数名と少人数ではあったものの、「制度・イノベーションと経済成長」の大会統一テーマのもと 3 名の報告者による報告と橋本敬学会副会長の軽妙な司会進行によって活発な議論が行われた。第 1 報告者の梶谷懐氏（神戸大学）は、現代中国経済について数多くの著作・論稿を公刊し続けているわが国を代表する現代中国経済論研究者である。中国出張を控える中で、スケジュールの調整をしていただき、翌 14 日にはいま上海にいるとのメールが入るほどの多忙の中での報告であった。改めて御礼を申し上げる次第である。第 2 報告者の永田晃也氏（北陸先端科学技術大学院大学、九州大学・名誉）は、九州大学において科学技術イノベーション政策教育研究センター長を長年にわたり務められたイノベーション研究の専門家である。私（磯谷）とは九州大学での元同僚であり、再会を楽しみにしていたが、直前に大きな手術をされ対面での参加は困難ということでオンラインでの報告をしていただいた。当日は手術後の経過観察入院からの退院直後でもあり、報告だけでもと思っていたが、報告そして質問・コメントへのリプライとコンファレンス終了時まで画面上での参加をしていただいた。この場を借りて同氏にも改めて御礼を申し上げる次第である。第 3 報告者の徳丸宣穂氏（関西大学）は本学会員（学会事務局担当）であり、イノベーション政策、技術経済論、北欧社会経済論を専門とする研究者である。近年は、北欧諸国、特にフィンランドと日本との比較からの研究を精力的に展開している。その成果の 1 つが、Tokumaru, N., Yabunaka, C. and Y. Shibayama (eds.) *Creative Co-evolution of the Economies and Welfare States in the Nordic Countries*, Springer, 2024 である。コンファレンスでは、イノベーションと制度の関係性について異なる 3 つの観点—中国の電子産業における企業間取引の秩序学（梶谷報告）、イノベーション・エコシステムにおける制度の役割（永田報告）、北欧におけるイノベーション公共空間の形成（徳丸報告）—から議論が行われた。

以下は 3 報告についての簡単な要約である。

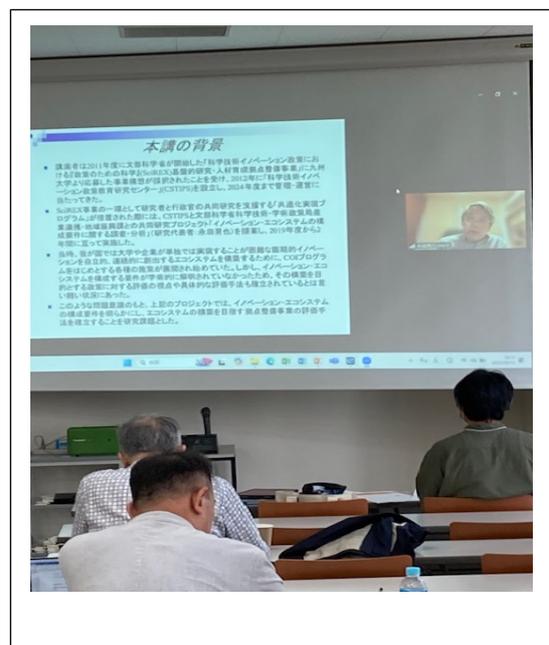
梶谷報告「企業間取引の秩序学—中国電子産業からの視点」：中国のイノベーションは持続可能かという問いから報告が始まり、次の諸点が強調された。中国の深圳においては、長期的な関係取引と短期的な仲介取引が共存しており、これがこの地域でのイノベーションを促進している。仲介取引ではデザインハウス（IDH）が仲介者として機能し、これが取引における情報の非対称性を減少させ、短期的取引でも信頼性を確保する。さらにシャオミなどの企業では付加価値の高低によって最適な取引形態を使い分けることが、イノベーションの多様性を支えている。

永田報告「イノベーション・エコシステムの進化における制度の役割」：2019 年度から 2 年間の共同研究プロジェクトの成果として編まれた永田晃也編著『イノベーション・エコシステ

ムの誕生：日本における発見と政策課題』中央経済社、2022年に基づいて、「制度の質がイノベーションを支える環境を生むのか」、「イノベーションを支える制度的枠組みとはどのようなものか」への問いへの応答を行うとして報告が始まり、以下の諸点が主張された。イノベーション・エコシステムとは単なるコミュニティではなく、イノベーションの創出・伝播を遂行する主体間の相互依存的な関係からなるコミュニティと、そのイノベーション・プロセスに影響を及ぼすアクターならびに制度的環境要因が形成する関係の総体として捉えられるべきである。またシリコンバレーの形成過程の分析から、その強みは、多様なタイプのエコシステム（サイエンス駆動型、オープンユニバーシティ型、産業シーズ駆動型、事業創造プラットフォーム型）の共存にあり、揺籃期にあるわが国のイノベーション・エコシステムについては、多様性を内部化した柔軟かつ頑健な構造を形成できるよう、それぞれの進化の方向に即した支援が政策課題となる。

徳丸報告「基盤的イノベーションと「イノベーション公共空間」—その制度的基礎」：基盤的イノベーション（生活基盤に関わる社会的ニーズを満たすイノベーション）の概念が提示され、イノベーション公共空間（異なるアクターを会わせ、矛盾・葛藤を顕在化させて学習を促し、新たなサービスの探索を促進させるような社会的機構）の重要性を説明し、その上で、フィンランドと日本の教育デジタル化に関する企業調査の結果の比較分析が行われた。結果はフィンランドの方が外部からの情報の獲得が盛んで、それに起因する製品変化が大きいということであった。ただし、フィンランドでは、地方自治体の自律性が高いという分権的システムの問題が露わになり、それに対応するために国家教育庁の役割も変化したことが説明された。

以上の3報告に対して、司会の橋本先生からもそれぞれに対する所感が示され、その後の報告者同士のコメントとリプライ、そして全体討論での議論の良い素材の提供となった。なお、参加者には中国・日本の比較経済分析に多くの知見を持ち、中国型イノベーションについての論稿も有する北京大学の宋磊（Song Lei）先生がおられ、コンファレンス終了後も梶谷先生と意見交換する様子がとても印象的であった。





2. 2025 年度進化経済学会第 30 回大会下関大会開催の案内:参加事前登録のお願い(3 月 5 日締切)

2025 年 12 月 11 日付けの学会 ML メールでのご案内の通り、2025 年度進化経済学会第 30 回大会は、**2026 年 3 月 14 日(土)・15 日(日)の 2 日間**にわたり、山口県下関市で開催されます。大会会場は、下関市生涯学習プラザ（下関市細江町 3-1-1）<https://s-dreamship.jp/information/access/>。14 日午後 7 時からの懇親会は、市立しものせき水族館「海響館」・イルカの見えるレストラン (<https://www.kaikyokan.com>) で行います（大会会場から懇親会会場までは送迎バスが出ます）。

第 30 回大会の参加事前登録をすでに開始しています。下記の URL の事前登録フォームにご記入の上、ご送信ください。

<https://forms.gle/PeVCvmzP5Bjt5DeAA>

事前登録の締切は、2026 年 3 月 5 日(木)。また**大会参加費と懇親会費**については、**事前振込**をお願いしております。何卒ご協力のほどをお願い申し上げます（振込先については、上記のフォーム内に記載しております。ご確認のほどをお願い申し上げます。）

なお、宿泊については早めの予約をお勧めします。学会 HP の大会サイト (<https://jafee.org/shimonoseki%202025/>) に下関市の宿泊情報を載せていますので、ご参照ください。下関市での宿泊の予約が困難な場合には、対岸の小倉駅周辺もご検討ください。JR 小倉駅から JR 下関駅までは 17 分で、下関駅から大会会場までは徒歩 10 分ほどです。

多くの会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第 30 回大会実行委員会

委員長 磯谷明德

事務局長 猿渡 剛

佐藤佑一

第 30 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録

日時:2025 年 9 月 13 日(土)12:00~12:50

場所:下関市立大学本館 I 棟(2 階)I-207 教室 + オンライン

出席者(対面):吉田雅明(会長), 橋本敬(副会長), 磯谷明德(大会実行委員長), 浅田統一郎, 荒川章義, 有賀裕二, 池田毅, 西洋(会計), 原田裕治, 八木紀一郎, 徳丸宜穂(事務局)

出席者(オンライン):井出明, 植村博恭, 宇仁宏幸, 黒瀬一弘, 巖成男, 瀬尾崇, 遠山弘徳, 中原隆幸, 鍋島直樹, 服部茂幸, 藤田真哉, 藤田菜々子, 吉井哲

欠席(委任状あり):宮崎義久, 横田宏樹

(敬称略)

1. 報告

1.1 会勢報告

徳丸事務局担当理事より会勢報告が行われた。

1.2 第 30 回オータムコンファレンス参加状況について

磯谷理事(大会実行委員会)より, 第 30 回オータムコンファレンス参加状況について報告があった。

1.3 日本経済学会連合報告

2025 年度第 1 回評議会報告についての資料共有により省略。

1.4 各部会報告

ニュースレター掲載につき省略。

1.5 各委員会報告

特になし。

1.6 次年度開催校について

徳丸事務局担当理事より次年度開催校が北海学園大学になる旨報告があり, 吉井理事から挨拶があった。

2. 議題

2.1 入退会について

徳丸事務局担当理事より, メール審議によって承認された新規入会者が提示され, これを確認した。また新規入会希望者について照会し, これを了承した。

2.2 2024 年度会計決算報告について

西会計担当理事より会計決算報告が行われ、2024 年度会計決算を了承した。

2.3 学会賞・奨励賞の選定について

小山選考委員会委員長の報告書により、今年度の学会賞を有賀裕二会員に、また奨励賞を王陽雨子会員・赤木茅会員にそれぞれ授与することが提案され、これを了承した。

3. その他

3.1 EIER 掲載本数増加施策に関する呼びかけ

Springer に支払う契約料を 2,200,000 円から半額にする条件として 30 本の掲載が必要であるが、2025 年春・秋号で合計 24 本程度であり、足りていない。そこで理事各位にも論文はもちろんノートやレビューを積極的に投稿してほしいとの提案が吉田会長よりなされた。また、特集検討委員会を設け、特集の企画を積極的に行うこと、また査読プロセスの停滞を解消する工夫を行うことが植村理事(編集委員長)より報告された。加えて、国際誌として、日本人執筆者ばかりが執筆している状況は望ましくないため、海外の研究者を積極的に巻き込むべきとの提案が八木理事(コーディネーティング・エディタ)より行われた。

3.2 科研費対応等学会事務局からの報告とお願い

科研費申請審査区分見直しへの対応について報告があった。

3.3 その他

今後の学会イベント(オンライン LPF と学会コミケ・古本市)について案内があった。また、委員会体制の強化について提案があった。

文責:事務局担当理事 徳丸宜穂

進化経済学会 会勢状況

2025年4月1日 時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	276 (休会2含む)
個人終身正会員	24
院生会員	37 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	1
個人準会員	0
	338

2025年9月13日 時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	276 (休会2含む)
個人終身正会員	25
院生会員	37 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	1
個人準会員	0
	339

第30回 進化経済学会オータムコンファレンス（下関市立大学）会計報告

2025年9月13日会計担当理事

西 洋（立命館大学）

1 2024年度収支計算書決算報告

※ 資料は、「進化経済学会 2024年度 収支計算書」

1-1 収入（会費および大会収入）

① 正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移（5年）

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
3,494,000円	3,467,000円	2,575,110円	2,775,000円	2,459,000円

（根拠資料）2020~2023年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，2024年度：2024年度収支計算書決算報告（決算額）の数字

（注）2024年度の会費収入は，対2023年度比で11.4%減少（316,000円の減少）。

② 会費収入・会員種別件数

年度	正会員 当年度分	学生会員 当年度分	正会員 過年度分	学生会員 過年度分	終身会員	その他	合計
2023 年度	210件	11件	49件	6件	2件	4件	278件
2024 年度	191件	10件	34件	4件	2件	15件	256件

（根拠資料）2023年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，2024年度：2024年度進化経済学会入金記録(4.1~3.31)

（注）

- ・ その他：前受会費，個人準会員，賛助会員，預り金。

③ 第 29 回関西大学大会収入

- ・ 収入合計は、863,500 円。
- ・ 進化経済学会からの補助 400,000 円。
- ・ 学会補助を除く収入は 463,500 円。

1-2 関西大学・大会（第 29 回大会）収支（簡略版）：単位は円。

	収入（金額）		支出（金額）		差額
オータム カンファレンス	進化経済学会補助	400,000	支出	182,009	217,991
本大会	大会参加費・懇親会費（事前払い）	361,000	支出	321,792	
	大会参加費・懇親会費（当日払い）	110,500			
	学生会員返金	-8,000			
合計		463,500		321,792	141,708
総計		863,500		503,801	359,699

（根拠資料） 関西大学会計報告 2024 年度：差額合計（359,699 円は学会口座に返金済）

- ・ 収支内容については 2024 年度収支報告書決算報告で監査済

1-3 支出（項目と繰越金）

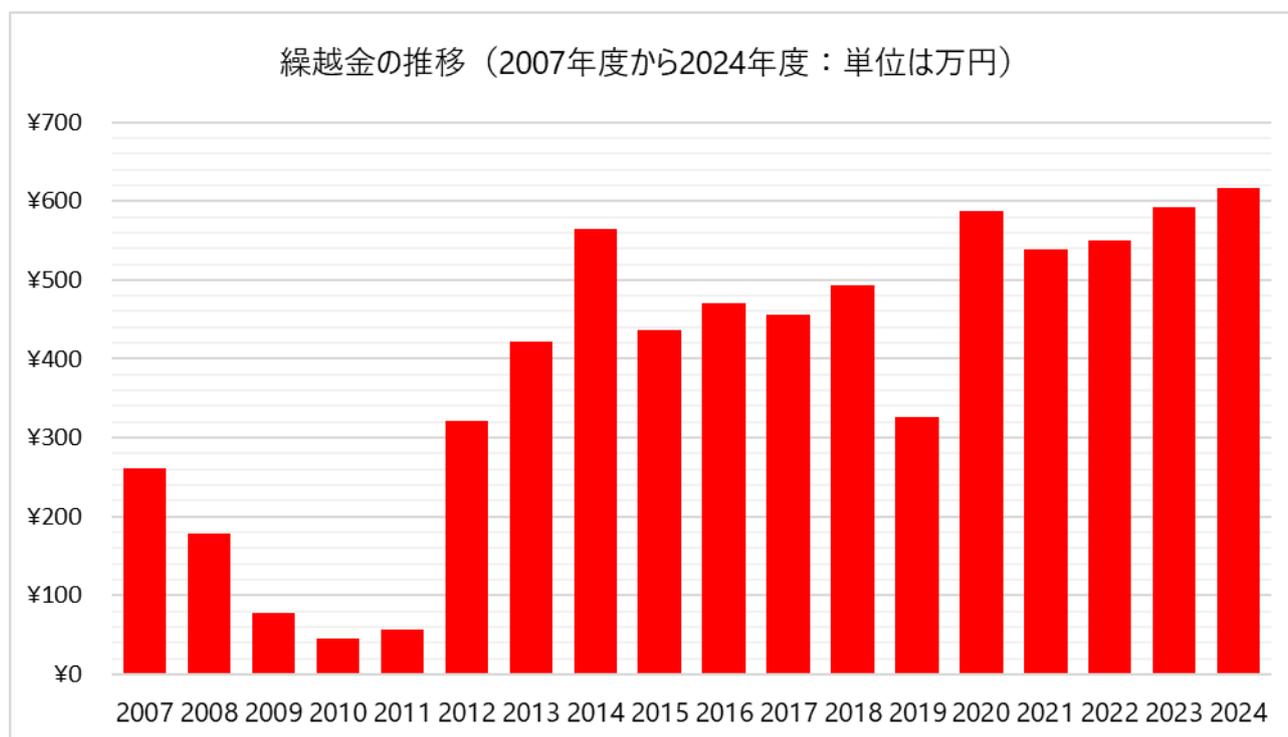
支出	参考：予算（2025年度）	決算額（2024年度）	決算額（2023年度）	決算額（2022年度）
大会費	1,100,000	503,801	612,069	539,234
オータム・コンファレンス	400,000	182,009	54,760	36,000
本大会	700,000	321,792	557,309	503,234
英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	2,200,000	2,200,000
通信費	15,000	9,093	5,568	5,568
交通費	0	0	0	0
事務用品費	60,000	12,780	8,283	20,681
謝金	15,000	0	0	0
送金手数料	15,000	6,950	5,910	7,065
会議費	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	0
事務委託費	200,000	72,319	150,700	253,277
国際交流費	0	0	0	0
部会補助費	150,000	30,000	40,000	34,540
経済学会連合会費	35,000	35,000	35,000	35,000
学会賞	100,000	0	50,000	50,000
振替票送付代	0	0	0	550
予備費	80,000	0	1,802	23,520
当期支出合計(a)	3,970,000	2,869,943	3,109,332	3,169,435
繰越金(b)	4,078,352	6,172,474	5,920,246	5,505,227
総計(c=a+b)	8,048,352	9,042,417	9,029,578	8,674,662

（根拠資料）2022~2024 年度：当該年度オータムコンファレンス会計報告および2024 年度理事会 会計報告資料。

（注）

- ・ 2025 年度の予算（参考）は2024 年度本大会理事会・総会にて承認済。
- ・ 22 年度には事務委託費を大幅に削減、23 年度は通信、謝金、送金手数料、予備費を20%削減する形で予算を組んだ。
- ・ 2024 年度には、さらに直近2 年連続で支出実績が予算の半分に満たなかった項目のうち通信費、謝金、送金手数料は16,000 円から15,000 円へ、事務用品費は64,000 円から60,000 円に減額。加えて、2025 年度は、事務委託費を300,000 円から200,000 円に減額。
- ・ 2025 年度支出を予算通り完遂すると、24 年度の会費収入約245 万円を基準とすれば、大会収入などで約150 万円以上なければ、赤字運営となる。ただし、実際には本大会の補助70 万円は支出していない、これを除けば、黒字運営のためには80 万円以上の大会収入その他が必要になる。
- ・ なお、吉田会長・植村編集委員長のご尽力で、EIER の投稿・採択数によっては、英文編集費を220 万円から110 万円に減額できる可能性がある。

2 繰越金の推移（2007年度から）



(根拠資料) 昨年度オータムコンファレンス会計報告，進化経済学会 2024 年度収支報告書（監査）。

(注)

- 2024 年度は会費収入が減少したが，事務委託費用を 7.2 万円程度に削減したこと，また例年同様に大会補助金はオータムカンファレンスの 40 万円のみを抑えられたことなどから，繰越金は昨年度よりも 20 万円程度増加し，6,172,474 円になった。

3 モノグラフ・シリーズの印税収入

- ・ 2024年度の『ハンドブック』利用料収入は1038円、『シュプリンガー・モノグラフ S』の印税収入は48,924円でした。『シュプリンガー・モノグラフ S』の内訳は次の通りです。

Royalties Statement Summary Statement Period 01 January, 2023 - 31

December, 2023 Statement ID: 2023-R-00.034.0405から作成

Title	Print Sales	Electronic	E-Book	Withholding Tax (10%)	Payable after Taxes
Emerging Risks in a World of Heterogeneity	2.23	2.26	0	-0.45	4.04
Social Preference, Institution, and Distribution	2.05	2.42	0	-0.45	4.02
A New Construction of Ricardian Theory of International Values	0	0	0	0	0.00
J.M. Keynes Versus F.H. Knight	2.08	7.04	12.67	-2.18	19.61
Contemporary Meanings of John R. Commons's Institutional Economics	0	0.2	0.28	-0.05	0.43
Economic Foundations for Social Complexity Science	6.12	3.04	12.18	-2.13	19.21
Contemporary Capitalism and Civil Society	0	3.01	3.66	-0.67	6.00
The new Japanese Firm as a Hybrid Organization	3.28	1.18	6.06	-1.05	9.47
Spectral Theory of Value and Actual Economies	4.49	2.7	9.91	-1.71	15.39
Complexity, Heterogeneity, and the Methods of Statistical Physics in Economics	15.1	6.03	29.34	-5.05	45.42
Interacting Complexities of Herds and Social Organizations	0.02	5.81	7.34	-1.32	11.86
Japanese Institutional Post-Keynesians Revisited	54.51	3.53	80.56	-13.86	124.73
Sociophysics Approach to Epidemics	4.42	3.02	10.32	-1.78	15.97
Statistical Properties in Firms' Large-scale Data	6.22	3.56	13.57	-2.33	21.01
Catastrophes and Unexpected Behavior Patterns in Complex Artificial Populations	-3.44	0	0	0	-3.44
Digital Designs for Money, Markets, and Social Dilemmas	25.94	4.59	42.39	-7.29	65.63
Principal Component Analysis and Randomness Test for Big Data Analysis	42.22	1.46	60.62	-10.43	93.86
Total (excluding Balance Carried Forward -3.44)	165.24	49.85	288.9	-50.75	456.65
Withholding Tax Calculated on 507.40					50.75
Payment Due SGD					456.65
Amount to be Transferred to your bank (rate 107.13309) JPY					JPY 48,924

以上

進化経済学会

2024年度 収支計算書
(2024年4月1日～2025年3月31日)

(単位：円)

収入		予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費		2,370,000	2,459,000	89,000	大会費	1,100,000	503,801	-596,199
	正会員当該年度	1,860,000	1,910,000	50,000	オータム・コンファレンス	400,000	182,009	-217,991
	正会員過年度分	0	340,000	340,000	本大会	700,000	321,792	-378,208
	終身正会員当該年度	360,000	100,000	-260,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0
	院生会員当該年度	90,000	49,000	-41,000	通信費	15,000	9,093	-5,907
	院生会員過年度分	50,000	20,000	-30,000	交通費	0	0	0
	準会員	0	0	0	事務用品費	60,000	12,780	-47,220
	賛助会員当該年度	0	0	0	附金	15,000	0	-15,000
	JAFEE通算寄付	0	0	0	送金手数料	15,000	6,950	-8,050
	その他(前受金費：預り金)	10,000	40,000	30,000	会費	0	0	0
大会収入		400,000	463,500	63,500	印刷費	0	0	0
	オータム・コンファレンス	100,000	0	-100,000	事務委託費	300,000	72,319	-227,681
	本大会	300,000	463,500	163,500	国際交流費	0	0	0
利息		0	40	40	部会補助費	150,000	30,000	-120,000
寄付金		0	150,707	150,707	経済学会連合会費	35,000	35,000	0
書籍売却代		0	0	0	学会費	100,000	0	-100,000
定期購読料		0	0	0	振替票送付代	0	0	0
利用料	「進化経済学ハンドブック」	6,000	0	-6,000		0	0	0
印刷収入	ジョプリンガー・モノグラフS	28,000	48,924	20,924	予備費	80,000	0	-80,000
当期収入合計		2,804,000	3,122,171	318,171	当期支出合計	4,070,000	2,869,943	-1,200,057
前期繰越金		5,920,246	5,920,246	0	繰越金	4,654,246	6,172,474	1,518,228
総計		8,724,246	9,042,417	318,171	総計	8,724,246	9,042,417	318,171

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2025年 7月 17日 恩 潮 - 二

進化経済学会監査委員

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2025年 7月 20日 藤田 菜子

進化経済学会監査委員

貸借対照表
(2025年3月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
I. 流動資産		II. 流動負債	
現金		前受金費	137,000
預金			
普通預金	1,967,322		
郵便振替	3,994,453		
※大会収入分計上分(郵便振替から控除)	-12,000		
未収金	359,699	III. 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,920,246
		当期差益	252,228
合計	6,309,474	合計	6,309,474

財産目録
(2025年3月31日現在)

(単位：円)

(資産の部)			
科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(天竺出張所)	1,967,322
	学会事務局	郵便振替口座	3,982,453
未収金	第29回大会残金		359,699
資産合計			6,309,474

(負債および正味財産の部)

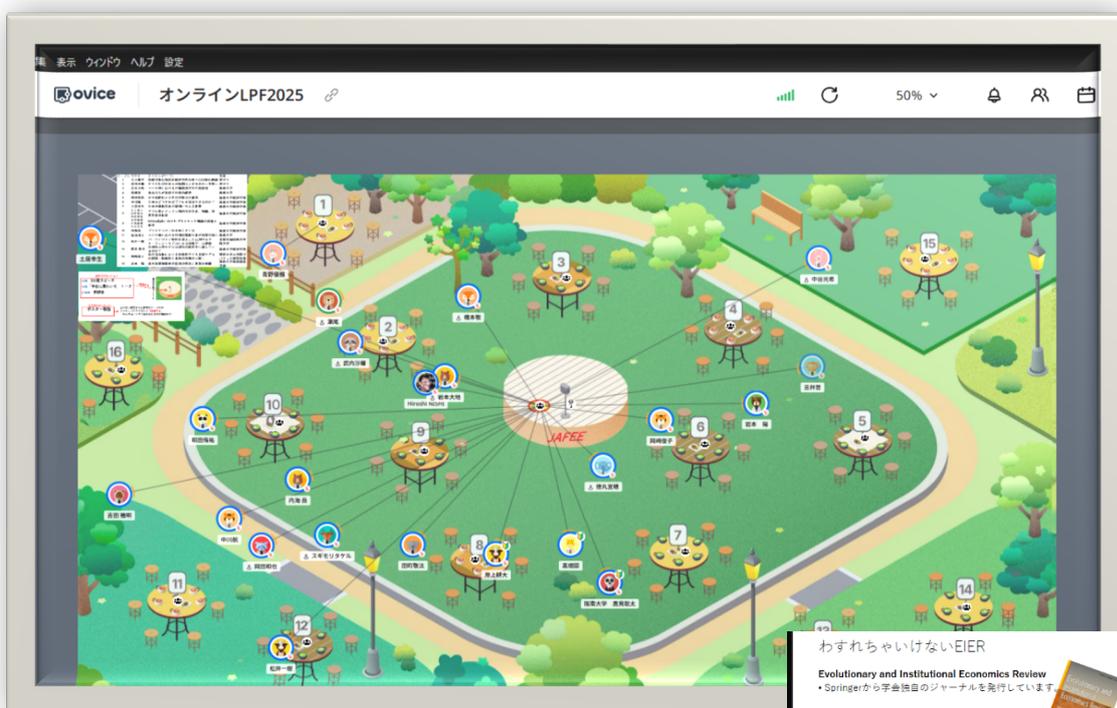
(単位：円)

科目	適用	金額	
流動負債			137,000
前受金費			
負債合計			137,000
正味財産合計			
	前期繰越金		5,920,246
	当期収支差額		252,228
負債及び正味財産合計			6,309,474

オンラインライブプレゼンフェス 2025

12月7日、フルオンラインのポスターセッション+トークイベント、オンラインLPF2025が開催されました。いつもの Gather.town の仕様が変更となり、今回ははじめて oVice を使うことになりました。

13時に開始して40分ごろまでは、ポスター報告の方々による内容紹介の3分間スピーチ、そして16時までポスターセッションとなり、今年もフレッシュな報告と会員の皆様とのときに深く踏み込んだディスカッションが展開されました（テーマ、報告者はリストをご覧ください）。



その後は趣向を変えて、「学会に賑わいを」をテーマに、アクティブラーニングの1つであるワールドカフェの形式で、自由に意見を交換するトークセッションが行われました。冒頭で、オースタムコンファレンスでのイノベーションを生み出すエコシステムの話につなげるべく、進化経済学会の立ち上がりの頃の「賑わい」の紹介、いまの学会でわたしたちはどのような or どのように「賑わい」をつかっていけるのか運営側から話を振り、そこからテーブルに分かれてフリートークの旅となりました。

わずれちやいけなEIER
Evolutionary and Institutional Economics Review
• Springerから学会独自のジャーナルを発行しています。
• Springerからはモノグラフシリーズも続々刊行中！
めざせ、専門誌のガロ!

ともあれ、こういうところです

- 経済学の既存のディシプリンにとらわれず、社会科学としての経済学のフレームワークを自らについて描きだすことも認められること（むしろ進んでほしい）
- そのための探求（マルチエージェントベースのシミュレーション、非線形の数理など）を書籍できるところ
- 経済学方法論、科学哲学、経済思想もメジャー領域
- 経済学、貴族誌もメジャーです
- 地域経済実践も関わっています

だけど・・・

30年を経て専門知を蓄積してきたのはいいけれど、専門であるがゆえに当初の「学問」のワクワク感がうすれがち

12月の最初の日曜日に行われます LPF は、オンライン+非会員 OK というフルオープン設計で、参加のハードルも低く、修論や卒論提出直前の方には学外の専門家の意見が聴けるタイムリーで得がたい機会となっております。今後ともみなさまのご協力をいただいでさらに充実していければと願っています。

最後になりますが、ポスター参加のみなさま、聴き手として参加して下さった会員のみなさま、そして準備にあたって下さった活性化委員会のみなさまに心より御礼申し上げます。



テーブル	発表者	タイトル(テーマ)	所属
1	大上峻平	持続可能な物流の経済学的分析～CO2排出削減と効果的な物流システムの構築～	阪南大学経済学部
2	武内沙羅	どうすれば日本人の給料は上がるのかー考察ー 学生アルバイトを中心に	阪南大学経済学部
3	岩本大地	コロナ渦における行動経済学の行動変容	阪南大学経済学部
4	高畑諒	食品ロスが及ぼす世界の経済	阪南大学経済学部
5	岡田和也	少子高齢化と日本の労働力の確保	阪南大学経済学部
6	中川航	日本はどうすればデフレを脱却できるのか？	阪南大学経済学部
7	土居幸生	日本の最低賃金が雇用に与える影響	阪南大学経済学部
8	岸上耕大、 田町敬汰、 和田侑祐	デフレ期とインフレ期の名目賃金、物価、実質賃金の比較	阪南大学経済学部
9	青野優雅、 杉森威瑠、 中谷光希	SDGs達成に向けたプラスチック削減の課題と展望	阪南大学経済学部
10	内海岳	プラスチックごみを無くすには	阪南大学経済学部
11	坂田 渚士	コロナ禍における特別定額給付金が消費行動に与えた影響	阪南大学経済学部
12	松井一樹	パーソナリティ特性を導入したLLMマルチエージェントモデルによる戦略ゲーム評価(予備的結果)	北陸先端技術大学院大学
13	鷹見 聡太	合理的人間モデルは現代の経済学に適しているのか？ ー経済学における新しい人間像とはー	阪南大学経済学部
14	岡崎俊子	地方自治体における共助型子ども支援モデルの展開ー福岡市と北欧の事例の比較ー	関西大学大学院ガバナンス研究科博士後期課程
15	岩本 陽	成年後見制度利用促進の理念と実態の乖離	関西大学政策創造学部

(文：学会事務局 吉田雅明)

第 58 号の訂正

8 頁 誤 2025 年 3 月 22 日 (日)
正 2025 年 3 月 22 日 (土)

編集後記

ニューズレターの編集が遅れてしまい、申し訳ありません。
気がつけば、第 30 回下関大会も近づいてまいりました。下関
でみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

ニューズレター編集担当 横田宏樹 (静岡大学)